第２回庄原市長期総合計画審議会専門部会（産業交流部会）　会議録（摘録）

１．開催日時　　平成 27 年７月７日（火）　10：00～

２．開催場所　　庄原市役所本庁舎５階　第２委員会室

３．出席委員　　生熊 剛士 委員　・　石川 芳秀 委員　・　土井 幹雄 委員
　　藤元 恵里子 委員　・　吉岡 史郎 委員

４．欠席委員　　片島 一平 委員　・　大坂 秋雄 委員　・　松長 百合子 委員

５．出席職員　　企画課長　　兼森 博夫
　　企画課企画調整係長　加藤 武徳
　　企画課企画調整係　　本郷 明宏
　　企画課企画調整係　　森久 敬太

６．傍聴者　　庄原市議会議員　福山 権二

７．会議次第　　別紙のとおり

８．会議経過　　別紙のとおり

第２回庄原市長期総合計画審議会専門部会（産業交流部会）　次第

平成 27 年７月６日（月）14：00～
庄原市役所　本庁５階　第２委員会室

１．開会

２．議事
・基本構想(素案)について　資料１　資料２　資料３
・基本理念および将来像について　資料４

３．その他
・次回専門部会開催日(予定)について
日時：平成 27 年９月２日(水)　10：00～
場所：庄原市役所本庁舎５階　第１委員会室

４．閉会

会議経過

（１） 開会

（２）議事

・基本事項について

事務局：（資料により事務局説明）

委　員：（特に意見なし）

・基本構想について

事務局：（資料により事務局説明）

委　員：最終的に、人口の目標設定をするのか。目標設定後は、それに繋がる目標達成のためのロードマップを描き、ＰＤＣＡにより定期的に見直す。そのプランを我々がサポートする形で良いのか？

事務局：目標設定をする。地方版総合戦略の中で目標指標を示し、ＰＤＣＡを行い毎年度見直すことになっている。その中で、地方の人口を確保するという目標があり、今後５年間は、長計の期間において個別の事業で検証をしていく予定である。

委　員：前回の審議会の資料で示された案１～３は根拠がなかった。

委　員：人口推計の設定はまだ１～３案の中で決まっていない。過去 10 年間に様々な対策を立て事業に取り組んできたが、結果、人口の維持は困難であった。人口を増やすため、低家賃の住宅を貸し出すなど、いかに本気で施策に取り組んでいくかが大事である。その施策が見えなければ、人口の設定は難しい。

事務局：人口減少に対する取組みはこれまで色々と行っており、その原因を様々な角度から分析している。

委　員：東城町にも多くの企業がある。個々で採用計画を持っており、いつ採用するか、どの程度採用できるかを考えている。そうした情報も市が把握し、施策につなげていけば良いのではないか。また、男女の触れ合いの場を設けるなど、効果のある施策を考えていかなければいけない。

委　員：旧庄原地域が都市機能の拠点区域で、東城地域が都市機能の補完区域という設定になっているが、西城地域においては、都市という機能展開は消えたと考えて良いか？10 年後の都市計画から西城地域は外れており、都市機能を持たせないのであれば、そのようなまちづくりの方向性を自治振興区や住民へ知らせる必要があるのではないか。

事務局：都市計画との関係までは整合していない。内部で都市計画のあり方、西城地域をどのように扱うかを含め検討する。

委　員：今回、コンパクトシティの名称がなくなったが、それはイメージが悪かったためか。

事務局：コンパクトシティは国が提唱した考え方であり、限定的な意味にとらわれやすいため表現を改めた。説明によっては言葉として出てくる可能性はあるが、基本構想の中では誤解を受けやすいため除外している。

委　員：庄原市全域が発展していかなければいけない。例えば、本市の全域が環状道路で結ばれても、各拠点の機能が薄れてくると計画の意味がなくなってしまうように思う。全ての地域が機能を持った拠点となることが望ましい。

事務局：８頁の交流人口の目標設定について、事務局の案を示しているが、他の部会で産業交流部会の意見を聞いた方が良いとの意見があった。意見をいただきたい。

委　員：平成 26 年度の実績数は？

事務局：少し下がって 260 万人台と聞いている。

委　員：交流人口も景気動向に左右されるため、５年位で見直しをするなら交流人口をこの位で設定しても良いのではないか。

事務局：観光協会としての意見はどうか。

委　員：観光協会としては、特に修学旅行生の呼び込みに力を入れたいと考えており、庄原の良さを知ってもらい、リピーターになってもらいたいと思っている。地域限定の旅行業を観光協会が取得したことにより、自分たちが思うような商品が作れるようになった。多くの人を呼ぶため HP 等で PR もしており、韓国から山登りにくる観光客も増えている。目標値については、30～37 年の間に横ばいくらいになると思う。

事務局：行政だけで解決できない問題が非常に多い。結婚、出産等は個々の問題であり、強制的には出来ないため非常に難しい。側面的なことしかできない。今後、基本計画の中で施策や個々の目標も設定する。

委　員：東城でも、民泊で３～５人位を受け入れてくれないかと募集しているが、いつ頃から修学旅行は実現するのか？

委　員：出来れば、３年先くらいに実現したい。今、100 件位が登録されているが、全て実用化できるかといった課題や、３年後に家の状況が変わることもある。民泊はこれからもっと増えると思う。

委　員：広島県の観光振興計画の３％をもとに庄原市の目標数値が設定されているとの説明であったが、282 万人にこだわる必要はないと思う。交流人口は、背景に事業やイベントがあり、例えば、丘陵公園で花火を打ち上げたら２～３万人は増える要素がある。280 万人に目標を設定したら、各地域がその目標達成に向けたイベントや事業を考えていけば良い。

委　員：交流人口については、庄原市がどういう魅力を市として発信していくのかといった方向性を考える必要がある。どういう戦略でいくのかがはっきりしなければ、空振りに終わる可能性が高い。危機的な状態を皆で認識し、どういう対策をするか議論していくべきである。

委　員：観光のライセンスを取ったことは非常に良いと思う。庄原市の魅力は何かを考えなければ修学旅行生も来ない。

委　員：周辺と比較して何が売りかをはっきりとさせ、それを事業展開に活かしていきたい。庄原市と聞き、多くの人が思い浮かべる観光地といえば帝釈峡である

が、実際現地に行くとあまり見るところがない。昔のように人に来てもらうには何が必要かを考える必要がある。

委　員：庄原市は外から見るとすごく魅力があると感じる。毎年桜の時期に桜めぐりをしているが皆に喜ばれる。帝釈峡はさびれているが、整備すると良くなると思う。外国人には里山の風景が魅力的に映る。地域連携を考えていくべき。

委　員：庄原に来たら、庄原にあるものを食べて欲しいと思う。庄原の人に庄原の魅力を知ってもらうため、１日で庄原市を回れる周遊バスを検討している。市民に庄原の良さをアピールして欲しい。それによって交流人口も増えるのではないかと考えている。最終的には宿泊型の観光を目指したい。

・基本理念および将来像について

事務局：（資料により事務局説明）

委　員：基本理念と将来像はこの４つの案の中から選ぶ段階か？

事務局：これは事務局の案であり、たたき台である。今後、市の内部で改めて協議・検討するため、出来るだけ多くの意見が欲しい。

委　員：庄原市が人口を維持するために何が必要なのかを論じ、理念や将来像を言葉で示すべき。人が住みつかないと人口が増えない。庄原市で働ける状況をつくり、生産年齢人口が住めるようにするべき。活力部分である経済が豊かになれば定住という発想にも繋がっていくと思う。働ける場があるか、ないかが重要である。雇用を生み、住みつき、子どもを産み、人口が増えるという循環を考えるべき。

委　員：交流人口は飽きられるとすぐに減少する。新しいものを考え、リピートしてもらうことが大事であり、それを支える人の力を付けることが大事である。交流人口は付属くらいで考えてもらってよい。

委　員：庄原市はこういう都市だと外に向かって発信できることに対し、市民が自信と誇りを持つことが理想である。「里山」という言葉は、時代の流れに乗っており、庄原市の魅力を伝えていると思うが、里山文明、共創都市といった言葉が、前向きで良いと思う。

委　員：林業の視点から見ると、森林のもつサイクル（植える→育てる→切る→植える）を守っていくことが重要である。そのため、「共生」という言葉は適当だと感じるが、意見にあるように活力部分を加味すると良いと思う。

委　員：それぞれの立場の人が、それぞれのやり方で庄原市を盛り上げていけば良いと思う。「里山共生」は好きだが、サブタイトルを「誰もが好き～」ではなく、「私が好きといえるまち」にすると、自分が庄原市をなんとかしようという役割が含まれると思う。

委　員：３人称ではなく「私が～」にすると、自分達ひとりひとりがという感じになり、とても良いと思う。

事務局：午前中の審議会でも、固いとの意見があった。ここでの「誰もが」は、庄原で生まれた人、今暮らしている人、外部から来られる人を含んだ表現となっている。

委　員：「住みたくなる」という表現を入れて欲しい。観光を通して、ここに住みたいと思われるようなまちづくりをしたい。牛を飼いたい等の理由で、Ｉターンする人はたくさんいる。

委　員：事業を創りだすか、企業へ勤めるか？この経済効果があって、はじめて子どもが生まれる。仕事があることが前提である。

事務局：定住に関し、仕事がないと人は住まない。しかし、仕事はあるが、働く人がいないということもある。希望する職種と求められる職種が一致しないため、そのような結果になる。まずは、庄原に帰ろう、住もうという思いを強くもってもらうことが大事である。

委　員：そのための環境づくりが大事である。親元へ帰りたい、子どもを帰したいという意識はあるが、次男、三男が住むための環境の整備が必要である。

事務局：その前に、その気持ちを持ち続けてもらうことが重要である。庄原を出て仕事に就くと、帰りたくても帰れなくなる。

委　員：林業関係でも、ハローワークで全国に募集を出すと、大阪などから応募はたくさん来る。しかし、一人で庄原に来て辛抱できるか？という理由から、全国

版には出さないで欲しいという企業もある。家があり、U ターン者ならば採用する企業もある。そのための環境整備が非常に大事である。

（３）その他

・次回開催日（予定）について

（４）閉会